

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108217		
法人名	社会福祉法人 新秋会		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	秋田市土崎港中央四丁目4番16号		
自己評価作成日	令和2年1月2日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「住み慣れた地域で、その人らしい生活の継続を支援します」の気持ちを大切に、日々入居されている方が安心して暮らして頂けるように努めております。日々利用者の方を支援させて頂く中で、その方のニーズを把握できるようにしています。ミーティング、日々の申し送り等で情報を共有し、その人らしい生活が出来るように常に支援させて頂いております。重要無形文化財の土崎曳山祭りの日には、皆で曳山見学、踊りを楽しんでおられます。海が近いので暖かい季節はドライブでセリオンの展望台に行ったり、ラーメンが好きな方は外食ドライブに出かけたりと外出の機会を設けるようにしております。共用型認知症対応型デイサービスの利用者の方との交流も入居者の方の楽しみとなっております。今後も入居者の皆様のより良い生活のために日々努力していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年2月5日		

レクリエーションを楽しんでいる時・出かけた時・誕生会の時などの写真を担当者のコメント付きで毎月ご家族に送って、どのような生活を送っているか日常を視認してもらうことで安心していただいている。写真はホームページにも掲載されている。良く撮れているためデータで欲しい希望もあるほどご家族には好評を得ている。職員や利用者同士の仲が良く、利用者に関わる時間を大切だと考え、できるだけ一緒に過ごしている。レクリエーションも沢山のバージョンを用意しており、色々なパターンで楽しんでもらえるよう工夫している。体に無害な除菌剤入りのミストを噴霧し、除菌消臭で感染症の発生予防にも積極的に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人主体が変わり「住み慣れた地域でその人らしい生活の継続を支援します。」を新たな理念とし、前理念の「いつまでも自分らしく穏やかな暮らしがしたい。」の気持ちも忘れずに職員全員が心がけています。	理念の変更があっても、基本的に利用者主体のスタンスで理念に沿った行動規範が作成され、サービスは利用者主体であることを念頭に実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご家族の方や知り合いの方が訪ねて来られたり、曳山祭りの時には、顔なじみの方が声をかけて来られたします。ドライブ・散歩等も天候を見ながら行っています。但し感染症流行期は面会を中止しております。	法人で実施している介護教室に協力しながら、グループホームはどんな所とか、介護保険のサービスの利用方法など、地域の方々に説明している。デイサービスを地域の方に利用していただく事で、事業所の周知が図られ、声をかけていただく機会が増えて地域貢献度が上がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	日赤短大の実習の受け入れ、看護大学の見学の受け入れ、法人として定期的に介護教室を開き、地域の方と交流を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの方に出席頂き、取り組みや、デイの方の虐待があった方を報告相談し、家族と話し合い入居し、現在元気に暮らしている方等、問題の相談・解決に取り組んでいる。	地域での困りごとを、運営推進会議で相談して一緒に解決に導いたり、感染症対策にアドバイスをいただいたりし、サービスの向上につながるよう努めている。	途中から地域の方が参加できなくなったままなので、できれば協力をいただけるよう対策を立てることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事情があり生活保護の利用者の方、成年後見制度利用されている利用者の方などが、自分らしく生活できるように行政各関係先から協力を得ながら支援させて頂いています。運営上で不明な点なども密に相談し利用者の方のサービス向上につなげている。	生活保護の方の処遇や集団指導でのわからない点を、積極的に問い合わせ、事業所への協力を仰ぎサービスの向上に結び付けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を作成し、ミーティングなどを利用し、拘束適正化委員会を開催し全員で正しく理解できるように取り組んでいる。運営推進会議の際にも委員会を開催し包括の方からも身体拘束についての知識等を得るようにしている。	抑圧感のない生活を送っていただけるよう、利用者主体の動きを妨げない支援を実践している。例えば、歩行不安定な方にセンサーマットを使用しているが、ベットから降りた際、合図として陰から様子観察しており、常に声をかけるのではなく見守りを主として危ないと感じた時だけ声掛けをするような使い方をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加したり、ミーティングの場で皆で情報共有して虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度、日常生活自立支援制度を利用されている方がいるので、後見人の方、地域包括支援センターの方などから制度の仕組みを聞き、活用の仕方を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の締結時等に、不安・疑問な点を伺い契約書・重要事項説明書で説明を行っております。当該施設以外の相談にも柔軟に対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当受付者を掲示し、ご家族の方の面会時に要望・苦情等ないかお伺いしております。	担当制を導入しており、利用料金支払い時の面会の際には、毎回違う職員が対応するのではなく、できるだけ担当が対応することで話しやすい関係作りをしている。また、忙しいご家族には手紙や電話で状況報告をして、意見や要望を表出していただけよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の合間やスタッフミーティングで介護リーダーが職員の意見をとりまとめ管理者へ報告し、管理者が代表者へ報告し可能な限り反映させています。半年に一度個別に面接を行い、意見等を時間をかけ聞いている。	管理者と話しやすい関係性が築かれ、意見や要望を表出しやすく、意見もできるだけ反映してくれるので働きやすい環境となっている。働き方改革にも積極的で、研修や有休もできる範囲で要望が叶えられている。ホームだけで解決できない場合は管理者が法人と掛け合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスガイドラインに基づいた給与表を法人として作成し、職員のレベルに応じた給与水準となるようにしております。また資格取得支援制度を設け、金銭面での支援、研修時の特別有給の取得など職員のレベルアップの整備に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に二回全職員と管理者が面接を行い、業務上の悩みや課題を共有し、解決できるようにアドバイスしている。外部研修にも可能な限り参加するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市グループホームケアパートナーズ・南部地域グループホーム等勉強会・秋田県グループホーム協会に参加し研修会などに参加したり、相互訪問でお互いの良い部分を自施設で反映できるようにしております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの段階で家族・本人の要望を聞き、事前訪問の際に、本人・家族の方から様々な意見をお聞きします。入居されてからも日々の会話の中で要望を聴きながら不安の無い生活を送って頂けるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前はもちろん、入居されてからでも、ご家族に連絡を取りながら利用されている方のご様子や、要望等を聞き入れながら本人・家族共に安心して利用して頂けるように努めております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話や、洗濯干しなど日常生活の事を一緒にしながら共に日々の暮らしを支えあう者どうしとして生活を送って頂いております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り、ご家族の方にも行事や面会に来て頂き、一緒に会話をしながら様々な問題を共有しながら利用者の方を支援していくように努めています。その他にも月1回お手紙にて、ご利用者様の様子や家族へのお気持ちなどを聞くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やお知り合いの方にも面会の制限は設けておりません。行事などにも参加して頂けるように面会時などにお伝えしております。	これまでの生活や暮らしぶりをご本人だけでなくご家族にも聞き取り、できるだけその関係性を大切にしている。入居者やデイサービスの方と、顔見知りとなって、新たに馴染みの関係が生まれるなど、関係性が良く保たれている。程よい刺激が相乗効果を上げてお互いに生き生きとした姿が見られている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方それぞれの方の個性を把握し、スタッフが間に入り交流して頂いています。座席についても本人の要望、相性等を考慮して決めています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でもご相談があればいつでも相談させて頂いております。特にハード面での対応が困難な場合で、他のサービスを希望される場合の調整をしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情等から、本人の意向を把握に努め日々の申し送りスタッフミーティング等で職員全体で共有している。	コミュニケーションを大切に、日常会話の僅かな変化も職員間で共有することで、色々な方向性を検討し、本人本位のケアとなるよう支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、担当ケアマネジャーからそれまでの生活を聴き、入居後も日々の関わりの中でどのような生活を務めてきたか把握するように、ご家族とも担当職員を中心に今までの生活の事などを聞きご本人を理解するよう努めております。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間帯を含め各利用者の生活の様子を介護記録に記載して、バイタルサインも記入し職員全体で把握するように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望等を聴き、主治医からも医学的な面から意見をもらい各利用者ごとに担当者は決めています。ミーティングで全員で検討し介護計画に反映させて頂きます。	休憩中の雑談の中から出た意見なども大切に、できる限り情報を提供し合って、現状に即した介護計画となるよう全員で検討して作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の生活や行ったことを記入し、訪問診療の内容は心療記録に残し、日常の生活の面、医学的な面からも職員間で情報共有しながら支援し計画の見直しを行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近場のスーパーに買い物に出たり、ご自宅で暮らされていた時に利用されていた美容室へ通われたりと、ご自宅で暮らされていた時に利用されていた場所へ近い地元で根付いた暮らしができるように支援させて頂いています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、かかりつけ医が訪問診療に来ております。歯科は必要時に訪問診療・受診にて治療対応しております。近隣にあるかかりつけ薬局には、処方が変わった際の薬の相談等気軽に相談できる関係を築いております。	今まで受診していた医療機関から、ご家族の希望で訪問診療に来てくれるかかりつけ医に変更することが多い。他科の受診時には、ご家族に協力していただいで適切な医療を受けられるよう支援している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に二回看護師が各利用者の健康状態の把握、機能訓練行い。介護スタッフが問題ある事を看護職に報告し、利用者の支援へ役立つように努めています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合には病院関係者へ施設での情報を速やかに伝え入院中の情報交換もこまめに行っている。治癒後はホームへ速やかに帰所できるように対応している。万が一ホームに戻れない状態になった場合でも転居に関して支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、当施設での設備面での対応が限界となった場合、特養・関連病院への入所等をあわせて説明しております。	建物の2階に居室があるため、エレベーターではベットの搬入ができないことから、車椅子での対応の限界や、立ち上がりができない、寝たきりなど、重度化への進行が認められ限界となった際は、ホームの方針として、スムーズに病院や特養・別の施設などへの移行を実施できるよう努めている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを元に協力医療機関の医師に24時間連絡できる体制をとっております。外部研修などで緊急時の対応について交代で実践し職員間で共有するようにしています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を職員交代で行っている、夜間はホームセキュリティの緊急連絡システムを導入しています。緊急避難先は土崎南小学校でホーム右に直進し徒歩5分程度です。消防署員に来て頂く場合もあります。	地域の高齢化や空洞化が進行している住宅が密集している住宅街に立地しているため、火災には十分注意していると共に、消防との訓練も密に行われ協力体制ができています。	今後、火災以外の色々な災害について、具体的にどう対処するか、備蓄品などについても法人で対応する部分と最低限ホームで対応しなければならない部分を再検討することを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の思っていることを尊重し、否定せずに傾聴している。皆の前で話したくないようなことは別室で聞くなど対応している。	それぞれの考えや思いを大切に意向を無視しない、利用者の言葉を受け止め否定しないことを大切に考え実践している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人の、思いを聞き取り、自己決定できる方にはして頂き、難しい方は、会話の中で思いをわかることができるように、支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室でテレビを見られる方、家事を手伝って頂ける方ソファで休まれる方と利用者の方がそれぞれの過ごし方をされています。ただし最低限の生活リズムが乱れない様にお声かけさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る限り着たい服を選んで頂き、ご自分で選べる方は一緒に買物に行き好きな服を選んで頂いています。男性の方は起床時に髭剃りのお声掛けをさせて頂いています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年末には、皆でだまこ鍋を囲んで食べて頂いたり、そのだまこを作るのを手伝って頂いたり食べる喜び、作る喜びを職員も一緒になり楽しんでいます。誕生会には手作りケーキ等を作り皆さんでお祝いしています。	行事食でバイキングを楽しむ時はいつも以上に食が進む。誕生会には好物をメニューに加えたり、外食に出掛けたりするなど、普段と違った形で食事を楽しむ工夫をしている。ネットを利用して食材を購入配達してもらうことで、買い出しにかかる業務を減らし、利用者に関わる時間を増やしている。食後、テーブルを拭く、食器を拭く、おしぼりを干すなど、個々が自分の役割として、生き生きと動く姿があった。	利用者に関わる時間を増やしたいという考えから、色々と工夫している中で昼食の一部や夕食を外部委託している。できれば、食前に五感を刺激し更に食事が楽しみとなるよう工夫されることを期待します。
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック、定期的にお茶など水分を取って頂く時間をもうけ水分量が不足にならないようにし、そのうえで一人一人の嗜好にあった物を、健康に害が出ないように主治医に報告しながら提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内を確認し口腔ケアを実施しています。義歯の方は毎食後義歯を外し洗浄し、就寝前には義歯を預かり義歯洗浄剤にて消毒しています。自分で十分に口腔ケアができない方は、職員が支援しケアしております。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、必要な方は声掛けにてトイレを使用させて頂いています。オムツの使用も必要最低限にし、出来る限りトイレを使用してもらうようにしています。ミーティング時に職員で状態を把握しながらできるだけオムツは使用しない様に話し合っております。	トイレでの排泄を中心に、利用者の状況を踏まえた対応を心掛けている。声掛けは、周囲に気づかれないようさりげなく、個々に合わせた方法を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳・ヨーグルトの提供。適宜水分補給して頂き、毎日様々な体操を行い便秘予防に努めております。それでも改善とならない場合は主治医へ報告し薬剤等で症状の改善に努めています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在はある程度の予定を立てて入浴して頂いていますが当日入浴したい気分ではないと訴えがあれば、日を替える等対応しております。出来る限りご本人が満足されるように湯舟に入って頂きますが体調に注意しながら対応しています。また肌の弱い方には敏感肌用のボディシャンプーの使用など個々の皮膚状態に合わせた入浴に努めております。	入浴剤の色や匂いを配慮して、安全に快適に入浴できるよう支援している。また、これまでの習慣や好みを踏まえ、できるだけ本人の意向に沿った入浴となるよう努めている。更衣や入浴の一連を同じ職員が担当し、希望に応じて同性介助を実施している。ボディシャンプー・クリームはホームでも用意しているが、自分のお気に入りも使用できる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムを把握し就寝・休憩して頂いています。食後は必ず昼寝したい方、テレビを見ながらゆっくりしたい方等その人それぞれに休息して頂いています。ただ昼夜逆転にならないように、最低限のリズムは守られるように対応しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、かかりつけ薬局の薬剤師から指示、助言を頂き、不明な点は薬剤師にすぐに確認し対応しております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援されるだけでなく、生活していく中で、洗濯干し、野菜の皮むき、食器拭きなど日常的に行っていたことを出来る限り、一緒に行って頂き、個別に要望のある方はお菓子、飲み物などを用意し、日替わりでレクリエーション活動等を行い、気分転換や皆との交流をとり充実した生活が送れるようにしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブのついでにコーヒーを飲みについたり天気の良い日は可能な限り外出し気分転換できるようにしています。ご家族とも都合がつけば、外出し気分転換して頂けるようお願いしております。	近所のスーパーへの買い物の他、喫茶店へも外出している。ラーメン等の外食の際には自分の財布を持参して、外出支援と一緒にお金を支払うことも支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の方の能力に応じて、自己管理して頂いています。買い物の際は本人が自分で決める事ができるように支援させて頂いています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの要望があれば、居室にてプライバシーに配慮し子機を使用しかけて頂いております。手紙についても要望があれば支援しております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン・床暖・加湿・空気清浄器を使用し快適な温度・湿度になるようにしています。利用者の方の写真や手作りカレンダーを貼ったりと、心地良い空間作りに努めています。今年は次亜塩素酸の噴霧機も導入し感染予防により注意しています。	思い思いに過ごせるよう、座り心地が違うソファが数か所に設置されている。デイサービスの利用者と共に使うスペースもあるので、口に入れても安全な除菌剤入りミストを共有空間に噴霧して空気洗浄を行っている。感染症の発生予防に積極的に取り組んでおり、除菌消臭効果で、より快適な空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で話される方はテーブル席で会話を楽しまれ、お一人でゆっくりしたい方はソファで休まれたり居室でテレビを見られたりと思い思いに過ごされています。ご家族・ご友人等が来られた際は2階のソファを利用しております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が転倒などの危険がある物をご遠慮させて頂いておりますが、基本的にご自宅で使っていたものを自由に持ってきて頂いております。衛生上の観点からカーペットのご利用は遠慮させて頂いております。	居室ごとにエアコンが設置され、好みの室温が調整できるようになっている。持ち込みは小さなものから大きなものまであり、今まで使用していたタンスや仏壇も持ち込んで、安心して居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂・階段等に手すりを取り付け、トイレも手すりを使えば自分で使用できる方・手すりを使えば階段で歩行できる方・手すりを使えば自分で浴槽に入れる方と皆さんが出来ることは自分であることができるように支援しています。		